

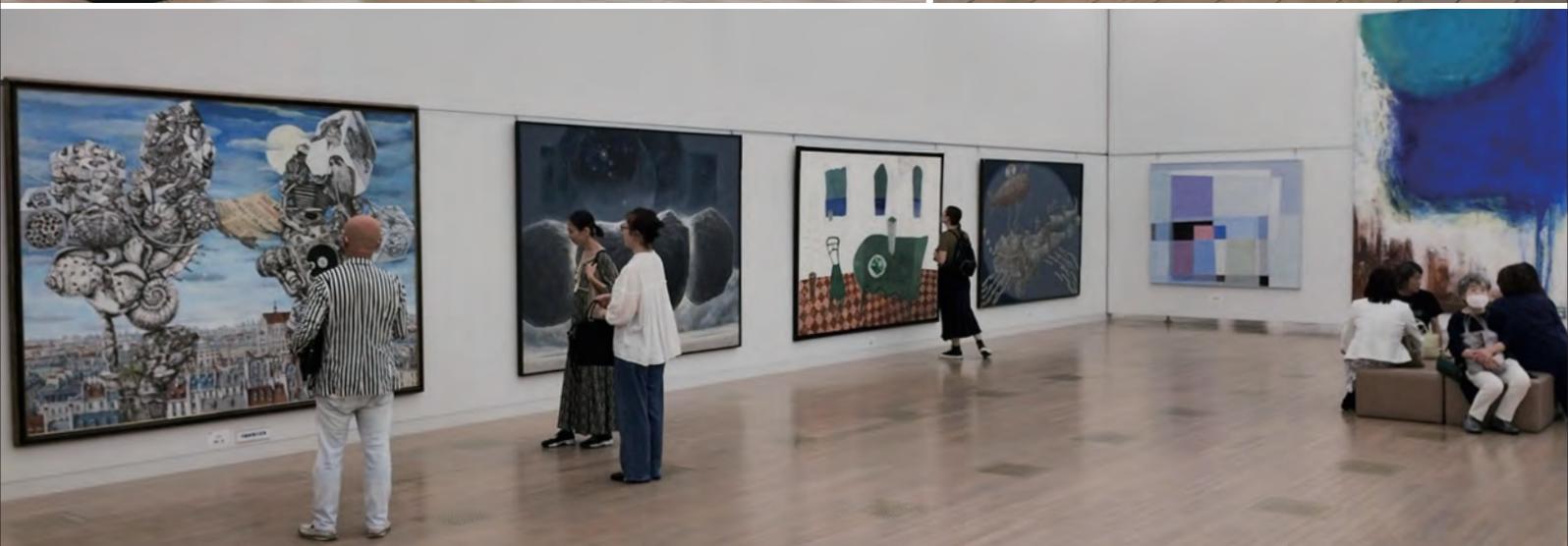
No.83 contents

- 2 第108回二科展 開催 〈絵画〉総評
- 3 〈絵画〉第108回二科展—絶え間なき新たな試み
- 4 〈絵画〉審査所感—審査はいきもの
- 5 〈絵画・彫刻〉第108回二科展 受賞者
- 6 〈絵画〉第108回二科展 受賞作品—制作の視点
- 7 〈絵画〉第108回展会場から—会員による作品寸評
- 8 〈絵画〉新会員紹介
- 9 〈彫刻〉総評
- 10 〈彫刻〉第108回二科展 受賞作品—制作の視点 新会員紹介
- 11 〈彫刻〉受賞作品寸評
- 12 event memo
- 14 パリ賞研修報告 第108回二科展 巡回展スケジュール
- 15 2025春季展へ向けて 2025春季二科展 選抜出品予定者 Teamwork ALBUM
- 16 二科ショップ・チャリティー報告 計報 事務局だより 編集後記



秋季

発行人：生方 純一 発行：公益社団法人 二科会  
<https://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646  
 E-mail：nika@nika.or.jp



**108TH NIKA ART EXHIBITION 2024**

## 第108回二科展開催

生方純一

第108回二科展では、作品の搬入・受付・審査の始めの頃までは豪雨や雷に見舞われ、交通の乱れが生じ飛行機や鉄道の不通などもあり、審査後いったん帰宅予定だった会員も足を奪われるなど大変だったと思います。

しかし、展示作業を終えて初日を迎えるころから会期中は連日記録的な暑さに見舞われました。

猛暑の影響もあってか最初は来場者の出足も芳しくなく見えました。そんな連日の猛暑にもかかわらず鑑賞者の数は昨年を大きく上回り、最終日には関係者に大入り袋が配られました。会期中、毎日会場に詰めていた関係者は大変だったと思います。また当番で来ていただいていた会員の方々もご苦労様でした。

この数年の来場者の特徴として外国人が増えていることに気がきます。観光客か滞在者か分かりませんが気軽に感じて熱心に鑑賞されていたように感じました。

今回はあらかじめ予防を徹底したこともあり、コロナやインフルエンザなどの障害もなく展覧会を全うすることが出来ました。



絵画部 審査会 2024年8月26日

## 第108回二科展 絵画部 総評

黒川彰夫

昨年引き続き全会員参加のもと、コロナに注意しながら審査が進められました。

例年より出品作は減ったものの、充実した作品が多く見られました。また、春季展で初めて企画したS20の公募作品の中から優秀作を展示して、春季展から本展へと意欲的に参加してくれる出品者の発掘に努め、S20の作品が二科本展にも新しい風を入れてくれるのではないかと、大いに期待が持てるのであります。

新人部屋、アニマル部屋など展示に工夫を凝らして、来場者に見やすい展示にして、かなり整理された雰囲気を作り出しております。これも展示委員の努力が実ったものと思います。

今回の内閣総理大臣賞は、永年パリの風景とアンティークな静物や甲殻類を組み合わせた情景を克明に表現し続けている濱田進「巴里残照」、東京都知事賞には堅実なデッサン力で人物像を描いた石関和夫「少し積もるかも…」が受賞致

しました。図らずも丁寧に表現された具象が選ばれましたが、二科の持つ領域の広さを感じます。

二科賞の近藤隆弘、パリ賞の中村英二は両者とも独自の抽象表現を展開し、今後の制作が楽しみなところであり、SOMP O美術館賞の今野真由美、上野の森美術館賞の武部美智子の二作品は、的確な具象表現を展開していてその技術の高さを感じられます。

さて今回特に注目したいのが、淡色で表現された作品群で、カラフルな色彩、明暗の強い作品の多い中で爽やかな風を吹き込んでくれた感があります。例えば、永田治子「花姿」は墨絵調子の中に浮かんだ花を、加治木成美「このつぎ」は人物の軽やかな表現が魅力的、福岡ゆらり「時満ちる迄」は消えている様な色彩の中に浮かぶ人物の儂さ、出月智子「a vie 8 II」のリズミカルな線描が楽しい、特選の福岡侑恵加「風」は水面に浮かぶ人物の揺らぎ、浅野勝己「夢を乗せてI」は

視点の面白さと表現力、会員推荐の田中正子「26時の夢I」ブルーグレー調と淡い色彩の美、中村ふく子「夢を集めて(4)」はグレイの明暗が美しく強さを感じます。

それぞれの作品は、淡色調でありながらその作品と対峙した時、見るものに確かなメッセージを伝えてくれます。今の時代に静かに語りかける作品の存在を貴重なものとして捉えていく事が必要ではないかと思われました。



# 第108回二科展―絶え間なき新たな試み

山中宣明

① 仲間がいればがんばれる  
：「YOUTHの会」発足

二科会は国立新美術館移転後、U35新人奨励室を設け、U35新人奨励室を設け、U35の奨励策に取り組み続けた成果として、U35出品者から会友・会員なども輩出し、大いに会の活性化に寄与してきました。

しかしながら若手出品者の中から同世代の仲間がいないのが寂しいという声がありました。そこで初日の作品研究会と合わせて、U35やOB・OGが集い、お互いの作品や自己紹介、LINE交換等を行うコミニケーションの場を設けました。

大島・山下(か)・高見愛が中心になり作品アドバイスや仲間作りの手助けをし、和やかな雰囲気の中でYOUTHの会が発足しました。これをきっかけとして「YOUTHの会」が次世代を担う若手作家たちの相互研鑽、仲間作りの自発的な発信のプラットフォームとなり、会に対する愛着や帰属意識をもち励まし合いながら益々活躍していくことを期待しています。

② 2階一般2点入選選抜室  
：目指せ！2点入選

第108回は昨年以上の厳選の中、一般から85名、会友は49名が2点入選しました。受賞者を除いた2点入選者からさらに優作を選抜き、会友の展示を中心とする2階の13室にオール2点入選の部屋を設けました。会友の力作にも匹敵する作品で一般入選者のレベルの高さがアピールできたと思います。来年はさらに会友の2点入選も増えることで2階の展示が充実すると思っています。

③ 3階初入選選抜室  
：新しき感性

今回は74名が初入選を果たしましたが、初入選からさらに優作を選抜き3階5室に展示し、二科展の初入選のレベルの高さを内外に示すことができました。

④ 3階アニマルルーム  
：動物で自己表現

アニマルルームも2年目となり今年も人気を集めました。アニマルルームに展示された出品者から、「私は動物をモチーフにしたのではない、動物を使って

表現している」という心意気にコメントがありました。まさにアニマルルームはそこが魅力、動物を描くのではなく動物で独自の表現を目指している作品の特別展示が趣旨です。これからも個性豊かな表現に光をあてていきたいと思っています。

⑤ 2階・3階休憩室にて  
春季企画S20号特別展示

：小は大を兼ねる  
本展の大作の充実ぶりはもちろんのこと、休憩室のS20号優作の工夫を凝らしたすっきりとした展示は、二科展の展示に振幅と膨らみを持たせました。

大作とS20号の両方展示されている作家も多く、S20企画の魅力が本展でも伝わり、旬の作家の意欲的に挑戦する制作姿勢が伝わる展示になったかと思えます。

最終日には生方理事長筆頭に、展示委員一同が会場の導線や各部屋の特徴づけ等更なる改善点の意見交換をしながら最終点検しました。今後も色々な視点から意見を募り、出品者や観客にも魅力ある展示を目指していきたいと思えます。



絵画部 3階 19室 アニマルルーム



絵画部 YOUTHの会 U35の出品者とともに



絵画部 3階 5室 初入選選抜室



絵画部 3階 11室 U35奨励室

# 審査所感—審査はいきもの 田浦哲也

コロナ禍の理事・監事・運営委員等による審査が、前回より会員全員による審査となりました。前回審査中にコロナ感染者が出たため、その後の運営に大きな影響を与えました。そのようなことを考えますと前回に引き続き全員による審査には、不安を感じざるを得ませんでした。事務局の対応でしたが、事務局の適切な対応により、無事審査を終了することができました。

今回の審査結果を前回と比べると一般出品者の選外人数がやや増えているが、



審査風景

2点入選者数も増えていることに気付きます。審査が終わった後、理事長が「審査はいきものだ」と語られたことは、そのことに触れての発言ではありましたが、もっと深い意味合いがあるように感じました。結果としては、作品の質が向上し、力作が揃い見応えのある展示になったように思いました。単なる数字合わせや再度の見直しをせず、潔い判断を行ったこと、審査員の総意が、自然にそういう方向に向かったことが、いい結果を生んだものと考えます。

一般の出品者、特に若い出品者の作品は、アニメのような作風だったり、画像の引用やデジタル加工、どこまで手描きなのか判断もつかないような作品も多々あります。作品によっては、私達の年齢では理解が難しいと思える作品さえあります。新しいものが登場するときいつも難解さを伴うものです。このような作品に正面から向き合っていくのはいいという審美眼を養われたいです。



絵画部 2階 1室

いたいものです。審査はいきものであるならば、愛情をもつて、時には厳しく育てることも必要で、自信をもつて審査すべきと思われまます。きっと将来の二科の宝となる作家がそのような作品の中からよきよきと壁をぶち破って生まれてくるものと思われまます。審査はいきもの、それを打ち破って出てくる作品もいきもの、その真剣な相互作用が、今一番求められているように思われまます。

## 第108回二科展 受賞者

**内閣総理大臣賞** 濱田 進〔長野〕

**文部科学大臣賞** 嶋崎 達哉〔千葉〕

**東京都知事賞** 石関 和夫〔群馬〕

**二科賞** 近藤 隆弘〔愛知〕

**パリ賞** 中村 英二〔福岡〕

**SOMPO美術館賞** 今野 真由美〔神奈川〕

**上野の森美術館奨励賞** 武部 美智子〔青森〕

---

**会員賞** 木村 利加子〔千葉〕、津田 佐千子〔石川〕、中野 紀三朗〔山梨〕、星野 敦郎〔新潟〕

**会友賞** 伊藤 須美〔兵庫〕、井上 貴義〔福岡〕、島村 薫〔兵庫〕、須佐美 恵子〔大阪〕、森 泰秀〔佐賀〕

**特選** あたえ 和男〔宮崎〕、植草 正利〔千葉〕、上野 節子〔和歌山〕、大野 厚代〔愛知〕、大森 恵〔静岡〕

**新人奨励賞** 辻 綾乃〔石川〕、三好 優母那〔石川〕

**二科新人賞** 今泉 歌奈子〔愛知〕

**会員推挙** 小野 唯希子〔大阪〕、鎌井 理香〔三重〕、河瀬 順子〔愛知〕、楠本 加津江〔大阪〕、久保 孝彰〔鹿児島〕、久保寺 一三〔京都〕、坂井 雅子〔茨城〕、佐々木 光子〔大阪〕、澤登 千代子〔千葉〕、篠原 説子〔兵庫〕、津野 勝己〔宮崎〕、富田 淳子〔愛知〕、長谷川 民子〔大阪〕、馬場 美芽〔大阪〕、平岡 輝〔大阪〕、福岡 侑恵加〔愛知〕、藤田 美智子〔和歌山〕、堀切 亮三〔神奈川〕、前 友洋〔東京〕、益原 礼子〔広島〕、御手洗 毅〔神奈川〕、山本 郁夫〔京都〕、山本 由貴〔石川〕、渡邊 憲司〔茨城〕

**会友推挙** 荒井 洋子〔富山〕、石川 政子〔愛知〕、奥州谷 啓子〔東京〕、熊谷 得志〔東京〕、塩川 晴美〔静岡〕、鈴木 綾子〔愛知〕、鈴木 健一〔京都〕、長江 明子〔東京〕、中村 英二〔福岡〕、中村 弘道〔東京〕、橋本 則子〔京都〕、畑 中 良二〔宮城〕、服部 由美子〔東京〕、古川 由美子〔兵庫〕、水谷 奈穂子〔三重〕

---

**二科賞** 井上 幸夫〔群馬〕

**ローマ賞** 中村 淳子〔岐阜〕

**彫刻の森美術館奨励賞** 笹井 南海〔石川〕

**会員賞** 該当者なし

**会友賞** 井上 なぎさ〔神奈川〕、丸山 恵美〔新潟〕

**特選** 岩村 明子〔東京〕、梅田 勝裕〔東京〕、中村 葵〔埼玉〕、保坂 航子〔埼玉〕

**会員推挙** 篠木 玲子〔埼玉〕、都丸 洋一〔群馬〕

**会友推挙** 洗川 一男〔愛知〕、瀬戸 志保〔埼玉〕

**二科賞** 内木 孝志〔大阪〕、大槻 薫〔茨城〕、加藤 弘子〔埼玉〕、鈴木 真木子〔茨城〕、武部 美智子〔青森〕、田中正子〔京都〕、坪田 裕香〔石川〕、中澤 純代〔神奈川〕、中村 純子〔愛知〕、中村 菜菜〔京都〕、渡邊 仁美〔神奈川〕

### 第108回二科展 受賞作品 — 制作の視点



■ 東京都知事賞 すこし積もるかも… F130



■ 内閣総理大臣賞 巴里残照 F200

**東京都知事賞** 石関和夫

日常のちよつとしたことに、心を動かされることとがあります。そんな些細な心の動きを描きたいと思っています。

今回は、雪が降ってきたときの一場面を表現しました。嬉しいのか、困っているのかは、鑑賞してくださる方に委ねたいと思います。

**内閣総理大臣賞** 濱田進

セーヌ川が流れる巴里。蓄音機、タイプライター等から奏でられる音色が綿毛と共に空へと舞い上がる。

そこから営まれる社会が未来へと脈々と一本のロープで繋げられた、私の心象風景を描きました。



■ SOMPO美術館賞 今日の終わりに F100 今野真由美



■ パリ賞 嵐の行く所 F100 中村 英二



■ 二科賞 流布 F100 近藤 隆弘

### 第108回二科展 受賞作品



■ 新人奨励賞 憧れ F80 三好 優苺那



■ 新人奨励賞 無限の選択 F80 辻 綾乃



■ 二科新人賞 Chocolate Smoke・芥川龍之介 F100 今泉 歌奈子



■ 上野の森美術館奨励賞 老木のひとりごと F100 武部 美智子

## 第108回展会場から—会員による作品寸評

1F 加藤 2F 吉金 3F 根木



強欲によって狂った道理  
川崎 英世



地の謳(2) 山下 進弘



祝祭 杉本尚香

鉛筆とペンとブルーの線や点を組み合わせて、細かく丁寧に描かれている。強欲に狂ったモンスターと化した動物は作者なのだろうか？ あるいは…

(吉金 幸枝)

川崎英世

線と色面の構成の作品だが、深みのあるオレンジの画面が力強い。物の形を描いてはいないけれど、画面から人のざわめきを感じられる作品である。思わず足を止めて見入ってしまった、これからの展開に注目していきたい。

(吉金 幸枝)

山下進弘

やわらかい色面構成で、収穫の喜びを表現している。ぶどうを狩っている女性の長く伸びた手が、明るくいきいきと描かれて、画面からは日々の生活の様子や伝わってくる。色彩の調和が心地よい作品で、女性の背中部分の濃いブルーが効いている。

(吉金 幸枝)

杉本尚香



STEPS II 須佐美 恵子



このつぎに 加治木 成美



回想 '24-3 山本 知子

白い道また階段がどこかへ誘うかのごとく消失点の向こうに迎える未来への予感を想像させる。固いモチーフと柔らかなモチーフを組み合わせ、ブルー系のモノトーン調に纏めたのが成功していると思う。

(加藤ひとみ)

須佐美恵子

老人が仕事姿でたたく様子子の雰囲気がとても良く出ている。線の扱いが洗練されており心地よく、水彩画を思わせる描き残しを生かした画面構成が素晴らしいと思った。若い才能の今後に期待。

(加藤ひとみ)

加治木成美

写真のネガ効果を狙ったようなモノトーンのシンプルな作品である。可愛いだけの人形ではなく、異様な池をバックに目線を遠くに見据え何かを考えているように見える。白が効果的に使われていて素晴らしいと思った。

(加藤ひとみ)

山本知子

## 第108回展会場から—会員による作品寸評

1F 加藤 2F 吉金 3F 根木



花咲く、大地 伊藤 裕康



interface VI 玉川 真里奈



stillness 3 島村 薫

マーブル模様を思わせる花々が画面に溢れ、際限なく広がっていく様子に引き込まれました。現時点で一つの到達点に行き着いているように思いますが、お勧めは支持体を紙からキャンパスやパネルに替えること。三次元的面白さが加わり更に魅力的になると思います。展開を期待します。

(根木 悟)

伊藤 裕康

最近流行りの軽めな画面と違い、マチエールを意識した画面作りが目を引きました。ローラーで色を重ね、美しい色の調和を図る作者の姿勢が垣間見えて好感が持てます。とはいえこまでは誰にでも出来る仕事。作家性が出るのはここからです。頑張ってください。

(根木 悟)

写實的に描かれた花の入ったガラスのコップを何層にもずらし繰り返し返しの画像を続けて不思議感を出している。計算された画面構成とは対照的に色が穏やかで安らぎさえ感じさせる秀作と思う。

(加藤ひとみ)

島村 薫

玉川 真里奈



情調の刻 野田 嘉郎



母の手 須郷 昌子



昨日の約束(I) 鷹尾 重徳

色数は少ないですが少ない色の中にもそれぞれ幅があり奥行きを感じます。荒い筆さばきに現場の空気が立ち上がって、更に極めつけは雨(みぞれ?)の描き方! 絵を観ていると言うより、まるでフラッと立ち寄ったその場所、足を捕られて眺めているようでした。

(根木 悟)

野田 嘉郎

細かく残るグリッド、幾重にも垂らし込まれた絵の具、色彩感に溢れ、あまり類のないタイプの絵に見えました。「母の手」というタイトルですが、むしろ表現が前に出た抽象画のよう、母の手はその面白味に利用されたように思えました(もちろんいい意味です)。

(根木 悟)

須郷 昌子

一見無造作な無邪気な表現に見えるが、さりげないカラージュの使い方など実力を感じる作品である。たくさんさんの色を使って描いているが邪魔にならず、絵の具のたらしこみなど、いきいきと軽やかな画面構成はみごとである。今後が楽しみな作品である。

(吉金 幸枝)

鷹尾 重徳

### 絵画部 新会員紹介



内木 孝志



Jassie

どんなに状況が変化しようとなっても変わるのはまわりです。 顔の裏に残像として残るような絵を描いていきたい。

第85回 記念賞 / 第93回 会友推挙  
第105回 会友賞 / 第108回 会員推挙



加藤 弘子



忘れられた時24-2

朽ちた無機質な廃墟に忘れられた空間があるとすれば、そこに命あるものを有機的に描き何かを感じたい。

第103回 特選 / 第104回 会友推挙  
第105回 会友賞 / 2022春季二科賞  
第108回 会員推挙



鈴木 真木子



界IV

都市の景色に興味を持ち、高層ビルの直線と高速道路の曲線を色と形を考えながら組み合わせせております。

第97回 特選 / 第99回 会友推挙  
第102回 会友賞 / 第108回 会員推挙



大槻 薫



Metoro 24-III

メトロをテーマに電車内の不安感や緊張感を表現しています。もっと不思議感を追求していきたい。

第99回 特選 / 第100回 会友推挙  
第102回 会友賞 / 第108回 会員推挙



武部 美智子



老木のひとりごと

巨木は人を魅了する。無言の力に引き寄せられる。そして、形が昇華して彩が生まれ、絵が生まれる。

第102回 特選 / 第104回 会友推挙  
第105回 会友賞  
第108回 上野の森美術館奨励賞・会員推挙



中澤 純代



ふ・わ・り

色、形の無い空気を、ここ数年は桜に力を借りて描いています。挑戦を続ける事が、喜びです。

第103回 特選  
第105回 記念大賞・会友推挙  
第106回 会友賞 / 第108回 会員推挙



田中 正子



26時の夢I

いつもの風景を色面構成し、線でリズムを表現します。潮風を感じながらの散歩気分を大事にしています。

第98回 特選 / 第99回 会友推挙  
第101回 会友賞 / 第108回 会員推挙



中村 ふう子



夢を集めて(4)

私独自の絵画をめざして、白いゆりの花から出発。長い手探り、模索の中で、おしべ、めしべのおもしろさに着目、今回の作品となりました。

第94回 特選 / 第98回 会友推挙  
第101回 会友賞 / 第108回 会員推挙



坪田 裕香



Water in the bottle A

水、透明な物に光が作用して起こる現象に心惹かれます。今後は動きのある絵にも挑戦したいです。

第104回 二科賞 / 第105回 会友推挙  
第106回 会友賞 / 第108回 会員推挙



福島 菜菜



優しい心

美しいものを沢山見たいです。夕暮れ、所作、粋と笑ひ、草花、柴犬の目。『赤の研究』は永遠の喜びです。

第100回 特選 / 第101回 会友推挙  
2015春季賞 / 第104回 会友賞  
第108回 会員推挙



渡邊 仁美



I Love You 2024-II

心の趣くままにミクストメディアと遊んでいます。何が見えますか？自由に物語を想像してください。

第98回 特選 / 第99回 会友推挙  
2015春季賞 / 第102回 会友賞  
第108回 会員推挙



彫刻部 集合写真

### 彫刻部 総評

前田耕成

第108回二科展は台風の影響が残る中、9月4日にオープンしました。国立新美術館での開催は第92回から、はや17年が経過し、彫刻部の展示は今回初めての試みをしてみました。会場に数か所モニター画面を設置して、過去3回分の本展会場風景を映像で提示し、回ごとに変化する表現や展示そのものの進化を紹介しました。また、展示会場は可動壁を効果的に使うことで、程よいメリハリができ鑑賞者のスムーズな導線を作れました。

展示された作品に目を移すと、風景はだいぶ様変わりしたように感じます。ここ数年の間に彩色された作品が多くなったことに気づきます。素材も鮮やかな色彩を施した樹脂粘土、布、鏡などを主素材とした作品と従来彫刻の素材として使われてきた金属、石膏、木の作品が一堂に展示されています。一見華やかに見える会場にあっても、相変わらず時流を越えた作品が会場を引き締めています。



彫刻部 野外展示会場

二科会彫刻部には、さまざまな様式を受け入れ、創作の自由を束縛しない、作品のサイズでは評価しないというコンセプトがあります。このことから第106回からカテゴリー30（30cm以内）の作品展示が始まり、小品ならではの作者独特の手法や空間を発見することができます。

室内から野外会場を望む休憩室の巡回展作品を見ながら外に出ると、高層ビルが間近に迫る都会の異空間に適切な間隔で作品が配されていく心地良く、一日の陽の傾きによって作品が変化していく様子も楽しむことができます。



彫刻部 カテゴリー30展示



彫刻展示会場

### 第108回二科展 受賞作品 — 制作の視点



何処へ 井上幸夫



シリーズ 木の氣 24-E 中村淳子



静謐の力 嶋崎達哉

**二科賞 井上幸夫**  
 私の周りで息づく小さな命をテーマにしています。今回は揚羽と少女。少女の背に羽根をつけてみましたが、違和感がないように苦心しました。少女のモデルは孫たちで、健やかで幸あれと願いを込め制作しました。賞を励みに、作品作りを続けていきたいです。

**ローマ賞 中村淳子**  
 この度は、ローマ賞を戴き有難うございました。思いがけない大きな賞を戴き驚いています。これからの制作は「木の氣」のテーマの一つでもある木片の再生を通し、新たな命(作品)にする事です。木片を愛おしみ、一筋の道を！

**文部科学大臣賞 嶋崎達哉**  
 私の作品は、しなやかで優美な女性像を通して、内面に秘められた静謐さや強さを表現します。今回は半身像というスタイルにしたのはその存在感を際立たせ、視線を通じて観る者との直接的な対話を試みています。また、像の下部に自然を象徴する要素を加えることで、人間と自然との深い調和やつながりを表現し、鑑賞者がその共鳴を感じ取っていただくことを願っています。



夜空 井上なぎさ

**会友賞 井上なぎさ**  
 金属板を焼きなまし金槌で叩いて造形する鍛金技法で彫刻を制作しています。今回は樹木と人をモチーフに、「夜空」というイメージの中に溶け込ませてみました。絞り技法で曲面をつくり、溶接で繋ぎ合わせ、木や人体を削り出しています。

第99回 特選/第100回 会友推荐  
 第106回 会友賞/第108回 会員推荐

今回の作品は「暁闇」と書いてギョウアンと読み「まだ暗い明け方の空の光」という意味です。最近のニュースを見る度暗い気分になりますが、その様な時であっても「ささやかな光をしっかりと掴んで欲しい」と両手に思いを寄せて制作していました。



篠木 玲子



暁闇

### 彫刻部 新会員紹介

第85回 彫刻の森美術館奨励賞  
 第95回 会友推荐/第107回 会友賞  
 第108回 会員推荐

初出品から46年と長かっただけに、大きな喜びです。お世話になった皆様に、心よりお礼申し上げます。制作を通して常に「作品の魅力とは」と問い続けてきました。この姿勢を今後も継続したいと思えます。変わらぬご支援を、よろしくお願いたします。



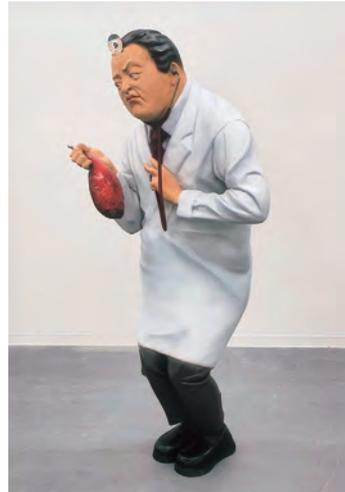
都丸 洋一



風



オオサンショウウオ・バナナスプリット  
岩村明子



賞味期限 笹井南海



Stella 丸山恵美

受賞作品寸評

**会友賞 丸山恵美**  
テラコッタは、焼き上がったその土の素材感や色味が温かいので、気張らないで制作できているなど感じています。向かい合ったときに、そのときそのときの気持ちに沿った様々な物語が広がるような作品が作りたいたいなと思って制作しています。

彫刻の森美術館奨励賞

**笹井南海**  
ドクターが魚を持っている。題名が「賞味期限」。一見読み解きにくい作品だが強い魅力を感じる。人間の生き様を内面化した精神性の高い作品だと思う。20代の若さ、表現技術も達者で、古来の彫刻技法にとらわれず新しい方向に挑戦している。今後の成長が楽しみである。(藤巻 秀正)

特選 岩村明子

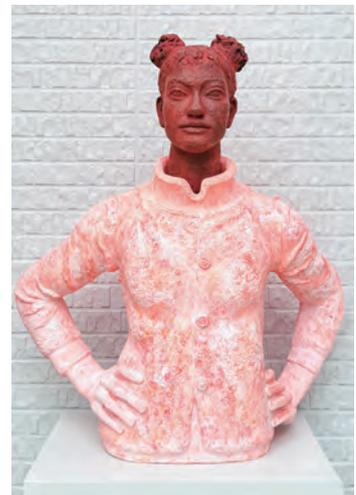
木彫による巨大なバナナスプリット、よく見ると下にオオサンショウウオがアイスクリームのイメージとオーバードラップされて鎮座している。着色といいとても丁寧な仕事ぶりの作品で、造形力の質の高さが説得力を持って見るものに迫る。次回作が楽しみである。(澤田 志功)



アダンの実 保坂航子



春信 中村 葵



turtle neck 梅田勝裕

**特選 梅田勝裕**  
テラコッタ粘土を用いた胸像である。会場に置かれた作品の前に立ち止まった瞬間、作品の眼の輝きに引き込まれた。作者は其の造形理論を充分に表現方法の中に練り込んで制作したのだろう。像に背骨が入っているかの如く、どっしりとした重さを感じ取る事が出来る。(大村富彦)

特選 中村 葵

彫刻部に設けられたカテゴリー130部門、3年目を迎えた初の受賞作品である。初出品のこの作品は植物のタケノコを、動物のサイの角に見立てて構成している。着想の面白さ、どちらも生えてくる生命力を表現したのか、新人の作品に対する新しい試みを大いに期待している。(島田 紘一 呂)

特選 保坂航子

研ぎ込まれたアダンの実が2個。モチーフを観察し、自らの内にイメージを積み上げる。石彫により制作した形を原型とし、铸造し、提示する。その制作方法がユニーク。ガラスと光るプロンズは、研ぎあげる事で作品をより純化させる意図だろうか？(橋本 和明)

彫刻部オープニングトーク 9月4日 10:30～ 彫刻部展示室



NIKA  
108th  
2024  
event  
memo

授賞式 9月4日 12:00～ 3階講堂



内閣総理大臣賞 濱田 進



文部科学大臣賞 嶋崎達哉



絵画部 会員推挙

懇親会 9月4日 16:00～ 3階講堂



支部メンバーも大いに歓談…宮城支部



北陸支部期待のU35



東京都知事賞 石関和夫

絵画部 作品研究会 9月4日 10:30～



研究会では会場にいる全会員が… 黒川理事



米田会員・渡辺会員 2F 6～8室



浅賀会員・野平会員 3F 1～3室



鶴岡会員 2F 9～10室



瀧澤会員 2F 11～13室



堀尾会員 2F 11～13室



須田会員 3F 7～10室

ギャラリートーク 9月8日 絵画部13:00～ 彫刻部14:00～



横前理事



嶋田会員



会員推挙 中澤純代さん



吉野常務理事



会友賞 丸山恵美会友



萩野弘一会員

支援講座 9月12日

3階講堂 参加費3,000円

午前の部 / 加覧裕子  
「絵を描くことは  
人生の絵日記のようなもの」

午後の部 / 粕谷正一  
「絵作りについて  
一構図を考える」



S20特別展示 2・3階休憩室

2024春季展企画S20公募の入選作品中から、優秀賞、来場者投票で選ばれたオーディエンス賞に秀作を加えた22点の作品を、2・3階休憩室に展示しました。  
S20サイズの小宇宙を春季展から秋の二科展会場に繋げる爽やかな空間になりました。



チームSNSが二科展覧会をリアルタイムに発信

イベントの詳細は  
こちらから



阿部昌義 山下かじん  
大岩万里子 村山成夫  
正司 強 林 一平  
富士谷 隆

公益社団法人二科会  
公式ホームページ



# パリ賞 研修報告

## ドイツ・フランス研修報告

日比野恵美

(第104回展 パリ賞)

世界を震撼させたコロナ禍を経て、ドイツ・フランスへ研修に向かう。

ペストによって死が日常であった中世、教会は生きた美術館であった。その後、美術館がその役割を担う。

私は、中世末期14世紀からルネッサンスを経て近代美術、そしてストリートアートに至るまでの偉大な巨匠の足跡を辿り、現代美術やジェネラティブアートへの



ドイツフュッセン世界遺産「ヴィース教会」

展望を考察し、自己の創作へ繋がるであろうヒントを探る事にした。

古来、度々起こっては社会に打撃を与えたパンデミック。人々は神に祈る事しか出来ず、悪魔を退治する大天使ミカエルは病魔退散のシンボルとして描かれる。ドイツフュッセンの世界遺産「ヴィース教会」の天井画がそれである。

相まって、フュッセン聖マンク教会には「死の舞踏」があり、骸骨と踊る20枚のパネル画がある。当時の人気画題で、権力も財力も知力も死には抗えないと言う死生観を説いていると言う。これらは、教会美術が貴族だけでは無く、地方の土地固有の文化や民衆信仰とも深く結びついていた証であるが、実際に目の前にすると、場所によって表現方法も着彩も変わる事がより深く理解できた。又、ここに音響効果加わり、更に神聖な神の存在を具現化する事が可能となったのであろう。

フランス「ストラスブル近現美術館」から、パリ「ル



パリ「ルーブル美術館」

「ブル美術館」へと場所を移し、色と光の捉え方を主題に美術史に従って巡る。

白と黒、赤と緑、黄と青が互いを惹き立てる「モナリザ」に魅入る。

そして、それは「オルセー美術館」の印象派であるモネやゴッホ、そして、スーラーの絵画に軌跡を観る事が出来る。

光の三原色（近代の色彩理論）へと繋がった絵画は、写真の登場により更なる進化を遂げる。

具体的に言うると、印象派のきらめきの描写は、人間の眼が感じない形や光のハーモニーを加え、彩色の過程で面と面、色と色の調和を実現する事が、絵画表現に求められるようになったと言う事であろうか。

更に時代を経て「ポンピドゥセンター」ピート・モン

ドリアンによって、光のオンオフの表出は昇華されたと言える。

パリの街は不思議で特別な場所である。過去へタイムスリップしたかと思えば、美術館を出ると直ぐに、「ストリートアート」に出逢う。そして、歩くほとんどの人がインターネットを観て歩く。

全てが混在する現在と、これから起こる未来がシシクロしては又、別れて行くように、美術もそれを展示する場所もシシクロしては、進化し続ける。

美術表現は抽象と具象の連続性の中に組み込まれ、枝分かれしては、又、戻る。そして、私の表現はと言うと、全てが混在する私の今を表現しなければならぬのだと心に留めた。



パリ「グラフィックアートの巨匠 ジェフ・アエロゾル」

美術が、現代美術からジェネラティブアートやNFTにどの様に向かおうとも、その向かう先の表現に必須だと考えられる、重要な条件が二つあると付け加えたい。

一つには、エコール・ド・パリに「ラ・リュージュ」と言う拠点が存在し、そして、そこで切磋琢磨した巨匠達が時代を切り開いた様に、私にとつての研磨の場所は「二科会」なのである。足りない所ばかりである私の唯一無二の大切な場所である。

二つ目は、巨匠達の目指した表現への挑戦と記録を踏まえて表現をする事により、自己だけでは気づかなかった視点で物を観察し、今を生きる表現を獲得出来る可能性がある、更に広がると言う事である。

自分の作品と真逆であるマーク・ロスコの、色彩が少なく大きな画面に心地よい魅力を発見し、ストリートアートのジェフ・アエロゾルのメッセージ性にヒントを得た。今後の作品表現の拡大に繋げていきたい。

最後に、この機会を与えて下さった二科会にお礼を申し上げ、私の研修報告とさせて頂く。

### 第108回「二科展 巡回展スケジュール

◆ 東海展  
令和6年10月22日  
～10月27日  
愛知県美術館ギャラリー

◆ 大阪展  
令和6年10月31日  
～11月10日  
尼崎市総合文化センター

◆ 京都展  
令和6年11月26日  
～12月1日  
京都市京セラ美術館

◆ 富山展  
令和6年12月4日  
～12月9日  
富山市民プラザ

◆ 鹿児島展  
令和7年3月2日  
～3月9日  
鹿児島県歴史・美術センター  
黎明館

◆ 福岡展  
令和7年3月18日  
～3月23日  
福岡市美術館

# 2025春季展へ向けて

2025 春季 二科展  
[NIKA+nika/S20号]コンクール

## NIKA+nika S20号 作品公募

最優秀賞 1名 (10/20号) 日本画・日本画・日本画  
優秀賞 4名 (10/20号) NIKA ART SPOTにて作品展示  
佳作 10名 (10/20号) 二科展 (2025年春)にて作品展示  
オーディエンス賞 4名 (10/20号) 二科展 (2025年春)にて作品展示

春季展S20号作品公募規約は  
P.16のQRコードより  
ダウンロードできます

春季展は常に新たな価値観を創造する実験の場としています。  
**5つの個** 春季展会場内の一人約10メートルの壁長展示スペースに第108回二科展の内閣総理大臣賞、都知事賞、特別賞（パリ賞・SOMPO美術館賞・上野の森美術館奨励賞）の受賞者を個展形式でそれぞれの表現を展示する春季特別企画です。

**NIKA+nika/S20 公募** 2024春季二科展のS20コンクールは予想を上回る応募で厳選となりましたが、統一サイズS20の新鮮な展示効果もあり、新しい風が感じられて好評でした。

2025春季展では展示スペースを広げ、最優優秀賞は中和ギャラリー企画個展、優秀賞は帝国ホテル・NIKA ART SPOTにて作品展示、さらにギャラリー投票によるオーディエンス賞と佳作作品は国立新美術館・109回二科展に展示します。

初出品の方も春季二科展の出品に意欲をもって挑戦されることを期待します。



### 2025 春季二科展

#### 選抜出品予定者

#### ■ 絵画部

(5つの個)

濱田 進 (会員・内閣総理大臣賞)

石関 和夫 (会員・東京都知事賞)

武部美智子 (新会員・上野の森美術館奨励賞)

中村 英二 (新会員・パリ賞)

今野真由美 (会友・SOMPO美術館賞)

#### (会友)

伊藤 須美 (兵庫)

井上 貴義 (福岡)

島村 薫 (兵庫)

須佐美恵子 (大阪)

森 泰秀 (佐賀)

荒井 洋子 (富山)

#### (一般)

植草 正利 (千葉)

上野 節子 (和歌山)

大野 厚代 (愛知)

大森 恵 (静岡)

小野唯希子 (大阪)

鎌井 理香 (三重)

河瀬 順子 (愛知)

楠本加津江 (大阪)

久保 孝彰 (鹿島)

久保寺 二三 (京都)

坂井 雅子 (茨城)

佐々木光子 (大阪)

澤登千代子 (千葉)

篠原 説子 (兵庫)

三好優母那 (石川)

#### ■ 彫刻部

(会友)

井上なぎさ (神奈川)

丸山 恵美 (新潟)

岩村 明子 (東京)

梅田 勝裕 (東京)

笹井 南海 (石川)

中村 葵 (埼玉)

保坂 航子 (埼玉)

#### (一般)

津野 勝己 (宮崎)

富田 淳子 (愛知)

長谷川民子 (大阪)

馬場 美芽 (大阪)

平山 輝 (大阪)

福岡侑恵加 (愛知)

益原 礼子 (広島)

御手洗 毅 (神奈川)

奥州谷啓子 (東京)

鈴木 健一 (京都)

中村 弘道 (東京)

橋本 則子 (京都)

畑中 良二 (宮城)

## Teamwork ALBUM



8月23・24日 搬入受付業務開始



8月24日～27日 絵画部審査会



9月3日 展示・会場構成



9月16日 4部門代表が揃い、閉会式

### ◇二科ショップ・チャリティー報告

野外彫刻展示場に面した開放的な1階・休憩室に設けた二科ショップでは、図録・絵葉書販売、また4部門の二科作家協力による小品を展示し、チャリティー販売を致しました。電子決済導入で売り上げも好調に総額1,053,200円となり、販売経費・準備金を除き、石川県文化レスキュー事業及び文化財ドクター事業へ228,000円・首里城未来基金へ171,000円・NHK厚生文化事業団へ114,000円の寄付をすることができました。ご協力の皆様に御礼と共に報告いたします。



### 絵画部会員

## 水谷征矢生氏



二〇二四年十月十日逝去 享年81歳  
略歴  
一九七〇年 第55回展初入選  
一九七五年 第60回展特選  
一九八八年 第73回展会友推挙  
一九九三年 第78回展会友賞  
二〇〇二年 第87回展会員推挙  
二〇一六年 第101回展会員賞  
ナナフシぎ 予と盾 第107回展出品作



### ◆訃報

公益社団法人二科会元名誉理事・大隈武夫氏が、2024年10月3日にご逝去されました。2008年(社)二科会理事就任、2012年(公社)二科会理事就任、2020年に名誉理事となられ、2022年に本会を退会されました。事務局長、役員として長年に渡り会を支え後進の指導を、地元にあつては文化振興に尽力されました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

### 事務局だより

毎朝、通勤電車でメジャーリーガー大谷の活躍を嬉しく感じた今年の夏、第108回二科展が開催されました。電子決済導入も3年目、キャッシュレスは昨年比8千人増の入場者や外国人のお客様に大活躍でした。早見表も紙媒体からQRコード検索となり、高齢者の方がスマホ操作にトライしている姿が印象的で、親切にレクチャーしている会員やスタッフの優しさが沁みるシーンが見られました。美術館の講堂で初開催となった懇親会祝賀会は「近くて便利、リーズナブル、お花も添えられお料理も美味しかった。懇親会参加の初出品者やU35作家紹介の時、

スクリーンに映し出される画像も良かった！」等の声が聞かれ、計画・準備に係わってきたスタッフ一同安堵の面持ちでした。今年はお弁当支給が撤入、審査、展示日のみとなる等、仕事は増えるが、物的な恩恵は減って、申し訳ない気持ちです。そんな時「手伝える事は何でもやるからね」と絵画部地方会員の申し出や「力仕事は任せて！」と作業体制の彫刻部会員。絵画彫刻のチームワークと協力体制が二科展を作り上げていく原動力と感じます。

二科会の公式HPは110回記念展からスマホ対応に即したコンテンツにリニューアル準備中です。二科展の魅力がより簡単にスマホにアクセスでき、ご家庭でも、

### 編集後記

今年の夏は暑かった。例年だと会期終了が近づくとつれ段々と涼しくなり、最終日を迎える頃には我家の彼岸花が咲き始め、ああ夏も終わった、賑やかだった二科展も終わったと少々虚脱状態になるが、今年是最終日が過ぎても咲く気配がなく、暑すぎて枯れたかと思う程。そんな暑さの中、御寄稿を頂いた皆様に改めて御礼申し上げます。また編集委員に山岡会員を迎え、新感覚でより斬新な紙面になるよう努めてゆく所存です。(T)

### 編集委員

委員長(総) 寺田 眞  
委員(総) 酒井 俊文子  
" " " " 山岡 博子  
" " " " 山岡 明日香  
" " " " 山岡 博子  
担当役員 野村 みぞら  
" " " " 野村 みぞら  
" " " " 野村 みぞら

2025 春季二科展  
「NIKA+nika/S20号」コンクール  
NIKA+nika S20号  
作品公募

2025春季二科展  
S20号 応募規約



### 第108回二科展 概要

表2

搬入点数	108回展(昨年比)
絵画・一般	1,585点 (170減)
絵画・会友	689点 (35増)
彫刻・一般	73点 (13減)
彫刻・会友	19点 (±0)
合計	2,366点 (148減)

表1

入場者 (前回比)	
一般当日	5,796人 (1,507増)
前売り券入場	2,940人 (5減)
高校・大学	784人 (316増)
チラシ割引	770人 (280増)
団体割引	21人 (1増)
企画割引	244人 (185減)
新聞社優待券	288人 (28減)
有料入場者	10,843人 (1,895増)
無料入場者	61,900人 (6,291増)
入場者合計	72,743人 (8,186増)

表3

展示 (遺作含む)	人数(前回比)	点数(前回比)	35才以下	
			出品者数(前回比)	応募・在籍数(前回比)
絵画・一般	608名 (73減)	693点 (44減)	42名 (12減)	143名 (13減)
絵画・会友	221名 (12増)	270点 (4減)	1名 (1減)	9名 (±0)
絵画・会員	168名 (3減)	168点 (3減)	-	-
彫刻・一般	59名 (10減)	61点 (12減)	16名 (7減)	17名 (8減)
彫刻・会友	19名 (±0)	19点 (±0)	2名 (2減)	4名 (±0)
彫刻・会員	55名 (1減)	69点 (4減)	-	-
展示合計	1,130名 (75減)	1,280点 (67減)	67名 (22減)	173名 (21減)

令和六年十月二十日発行  
公益社団法人 二科会  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿4-13-15  
レイフラット新宿501号室  
電話 03-3335-4664  
FAX 03-3335-4768